



考えぬかれたことほこそ、私たちのほんとうの力

遊んでいるつもりが、いつの間にかケンカになり、手が出ってしまった。些細なことで腹を立てて友達を傷つけるような言葉を浴びせてしまった。日々学校では、様々なトラブルが起きています。そんな話を聞く度に、ケガはなかったでしょうか？互いに納得できる話し合いができたでしょうか？心が深く傷ついたままになっていないでしょうか？と心配になります。

友達はいいものです。一緒にいると楽しいし、困った時には助けてくれます。でも、いいことばかりでもありません。自分がやりたいことと友達のやりたいことが違って意見が対立することもあるでしょう。また、友達の行為がずいぶんと迷惑に感じられることもあります。心ない一言に深く傷つくこともあるでしょう。

そんな時、人は心の余裕をなくし、かっとなって手が出たり、暴言をはいたり、自分の都合と気持ちだけを優先してそれを押し通そうとしたりしがちです。大人でもそのようなのです。成長途中の子供たちならなおさらです。ただ、そうした結果は相手も自分も傷つくことになります。

7月のテレビ朝会で、井上ひさしの「子どもに伝える日本国憲法」から、下のような言葉を抜粋して子供たちに伝えました。憲法9条を子ども向けに解説した部分です。戦争放棄を謳った憲法9条については、その改正をめぐって議論の途中です。しかし、戦争でなく対話で、言葉の力で、もめごとを解決していこうという9条の精神は尊ばれるものだし、是非子供たちにも大切にしてほしいと思うのです。

どんなもめごとも筋道をたどってよく考えて言葉の力をつくせば必ず静まると子供たちには信じてほしいと思います。学校で起こったトラブルを対話によって一つずつ解決していくことで、言葉の力で問題を解決することができるという自信を身につけてほしいのです。

どんなもめごとも
筋道をたどってよく考えて
ことばの力をつくせば
かならずしずまると信じる
考えぬかれたことほこそ
私たちのほんとうの力なのだ

井上ひさし
子どもに伝える日本国憲法より